

「防犯の話」中川眞弥

児研三田会のホームページが何時見ても変わらないのは、幹事一同の責任で、記事を何も提供しなければ内容も変わらないのは当たり前のお話です。私もホームページにコラム欄を頂きながら何も書かずに日が過ぎて、大いに申し訳なく思っている一人です。今回ホームページの刷新に着手するとか、この機会にコラム欄も一月に一回は入れ替えるようにお約束したいと思えます。

さて、今回は『60歳からの防犯手帳』というのを読んで、日常に油断が多いことを反省させられたので、そのことを一文にまとめてみました。この本は年寄りに限らず、家庭の必読書にしてよい内容です。最近イラク関連で「自己責任」が社会の議論になっていますが、それとはいささか状況を異にしますが、日常の防犯はまさに「自己責任」が大きな部分を占めているようです。

私も先日、散歩中に“ひったくり事件”に遭遇して、とっさの時の判断の鈍さに大いに反省させられました。私は“ひったくり”の現場を見たわけではないのですが、周囲の家並みを見ながらのんびり散歩していましたが、突然スクータの音が湧き起こり、「困ります！困ります！返してください！」という悲鳴が聞こえて前方の曲がり角からスクータが、続いて中年のご婦人が買い物自転車を懸命に漕いで現れて、目の前の十字路を右折して大通りの方へと走りました。「あっ！ひったくりだ」とは思いましたが、すぐスクータの番号を見るとか、犯人の服装など注意深く観察するなど一切思いつかず、災難に遭われたご婦人の容姿だけに注意が行って、自分が携帯電話を持っていてすぐ通報出来ることさえも思いつかないありさまでした。とっさの時に何をするかという判断はなかなかうまくいかないものだとつくづく思った次第でした。それにしても最近“ひったくり事件”が多発して、散歩の道沿いに「ひったくり発生場所」などの注意看板が目立つようになりましたし、自転車の前籠には、必ず網を掛けるなどの防止策をするように呼びかけがあります。その事件以後、外出時にすれ違う自転車の前籠に注目してますが、七割は防止策がないように見かけます。中には網はなくともトウトバッグの手持ちの部分を手柄に通して前籠に荷物を入れている人も見掛けましたが、一般にお買い物自転車の愛用者はひったくり対策が不用心のように思われます。警察のパンフレットや町会の回覧版、或は新聞の家庭生活欄等で度々注意を呼びかけているのに、“ひったくり犯”が一向に減らないのには、どうも防犯の「自己責任」が欠けていることも一因でしょう。

それで、『60歳からの防犯手帳』を読んだのですが、防犯上の「自己責任」について大いに反省させられました。中でも“しっかり高齢者”をめぐそう”という項目には、“自分の身は自分で守る防犯大原則”のチェックとして、年寄りが自分で出来る「生活安全レベルチェック」と「すまいの安全度チェック」というのが掲載されています。それで我が身のチェックをするとなかなかAレベルには達していません。どうも少しのんびりし過ぎて犯罪を誘発している安全レベルかなあと思ったりして、早速に対策を講じることにしました。しかし永年の生活習慣はなかなか是正しにくいもので、なかなか対策ははかどりません。中でも困っているのが、日常の必需品です。例えば健康保険証などは家内中が分かり易い場所にしまっていますが、防犯手帳によれば健康保険証は自らの証明書になるので窃盗犯の欲しがるものの一つだと書いてあります。サラ金に持って行けば借金出来るわけですから大いに利用価値があるのだそうです。しかし、大事に隠してどこへ仕舞ったか分からないでは日常の役に立ちませんから？..... 防犯もほんとうに大変なことだと実感しているこの頃です。

